

学習指導要領		都立墨田工科高校 学カスタンダード
(1) 私たちの時代の歴史	<p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。</p> <p>開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。</p>	<p>日本史の大まかな時代の流れを復習すると共に、現代の課題との密接な関係を考察させ、歴史は生徒自らが関わる意識を形成させる。また、就職の多い本校生徒が社会において必要な一般教養としての日本史の基礎知識を涵養する。</p>
(2) 近代の日本と世界	<p>ア 近代国家の形成と国際関係の推移</p> <p>(ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。</p>	<p>[近代の萌芽]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国のアジア進出と植民地について、中国の状況等を踏まえて考察できる。世界史既習範囲との関連を活かす。 ・国学や蘭学などの新しい思想や学問の登場、寺子屋などの教育機関の発達が日本の近代化の基盤になったことを理解させる。 <p>[開国から幕府の滅亡]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペリー来航などの開国要求を契機に、江戸幕府が開国したことを知る。 ・日米和親条約・日米修好通商条約などの不平等条約の内容を理解する。 ・開国後の日本と尊皇攘夷と公武合体の対立を含めて倒幕の流れを理解させる。 <p>[明治初期の諸改革]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の項目の内容について江戸の封建社会からの変革を理解させ、また現代社会にも関連させながら考察を深める。 ・富国強兵（国際社会の中の日本） ・殖産興業 ・廃藩置県 ・封建的身分制度の廃止 ・学制 ・徴兵令 ・地租改正 ・欧米文化の導入（鹿鳴館外交）

学習指導要領	都立墨田工科高校 学カスタンダード
<p>(イ) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に注目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる。</p>	<p>[条約改正]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治政府が欧米諸国との不平等条約改正を主要な外交課題として取り組んでいたことを理解させる。 <p>[日清・日露戦争と国際関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮に対する支配権をめぐり日本と清国との間で対立がおき、日清戦争がはじまったことなどをビゴーの風刺画などを活用しわかりやすく理解させる。 ・日清戦争は下関条約によって講和が成立したことを知る。 ・三国干渉と遼東半島 ロシアとの対立について理解する。 ・列強の中国分割が進んだことを考察させる。 ・日英同盟を結んだ日本は、ロシアと朝鮮や満州の権益をめぐり対立し、日露戦争に突入する経緯を知る。 ・日露戦争は、ポーツマス条約によって講和が成立したことを知る。また、この内容に対する日本国民の反応も考察させる。 ・日清・日露戦争を通じて日本は国際的地位を高めて韓国併合を行うことを知る。 <p>[政党政治の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次護憲内閣と原敬内閣の成立により本格的な政党内閣が組織されたことを知る。

学習指導要領	都立墨田工科高校 学カスタンダード
<p>イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 (ア) 産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>(イ) 諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次護憲運動を経て二大政党制がはじまったことを知る。 ・普通選挙法制定までの過程を見て、選挙権の意義を考察させる。 <p>[産業革命の進展と資本主義の発展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業革命は、紡績業や製糸業などの軽工業からはじまったことを知る。 ・日本の産業革命における重工業の発展は、日清・日露戦争による軍需が大きいことを知る。 <p>[国民生活の変化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業構造の変化 ・都市への集中 ・大正デモクラシーの風潮と昭和への流れを考察する。 <p>[第一次世界大戦前後の国内外の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦において、日本が連合国として参戦し、主に中国における利権を得て国際的な立場を強めようとしたことを知る。 ・パリ講和会議とワシントン会議の意義について知る。 <p>[戦間期の国内外の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後恐慌、震災恐慌、金融恐慌、昭和恐慌などの日本を取り巻く経済状況の悪化と国民生活の厳しさと社会不安の増大したことを知る。 ・世界恐慌の影響を考察する。 ・国家主義思想の影響や軍部の台頭によって五・一五事件や二・二六事件が起こったことを知る。

学習指導要領		都立墨田工科高校 学カスタンダード
<p>ウ 近代の追究</p> <p>近代における政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から、産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などについて、具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を育てる。</p> <p>第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。</p>	<p>[第二次世界大戦前後の国内外の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中戦争中の国内の政策を知る。 ・近代日本がどのように形成され展開してきたかを政治・経済、国民生活や文化の動きから考察する。 	
<p>(3) ア 現代日本の政治と国際社会</p> <p>占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる。</p>	<p>[我が国の再出発]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の日本は、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）が日本の非軍事化と民主化を目的に間接統治したことを知る。 ・GHQの五大改革の概要について理解する。 ・GHQ草案をもとに制定された日本国憲法について旧来の大日本帝国憲法との差異を考察させ、特に三大原理について知る。 ・戦後の混乱と民主選挙の実施について考察させる。 	
<p>イ 経済の発展と国民生活の変化</p> <p>戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。</p>	<p>[冷戦の開始と講和]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカを中心とする西側陣営とソ連を中心とする東側陣営の冷戦構造を理解する。 ・朝鮮戦争の発生による日本政治・経済の影響について考察させる。 ・サンフランシスコ平和条約の調印による日本が独立回復と同時に日米安全保障条約が調印されたことを知る。 	

学習指導要領	都立墨田工科高校 学カスタンダード
<p>ウ 現代からの探究</p> <p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身につけさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球諸島、小笠原諸島、奄美半島の返還を含めて一連の流れを考察させる。 [政治や対外関係の推移] ・我が国の戦後の政治状況、55年体制について約40年続いたことを知る。 ・日ソ共同宣言、国際連合への加盟、日韓基本条約、沖縄返還、日中国交回復などの戦後からの脱却と外交政策の流れを考察させる。 ・冷戦の終結とともに我が国が国際社会から求められる国際貢献のあり方について知る。国際連合での役割にも触れる。 [日本経済の発展と国民生活の変化] ・我が国が、戦後の経済復興を成し遂げ、高度経済成長、石油危機を経て世界有数の経済大国となったことを知る。 ・高度経済成長による成果と公害などの社会問題や社会構造の変化に着目させる。 ・二度の石油危機をへて、高度経済成長が終了し日本経済が安定成長の時代に入り現在に至る過程について考察する。 ・現代の日本社会が直面する身近な社会的事象や地域の事象、現代の課題をふくめて身近な時事問題などを様々な資料を活用して、具体的な事例を通して多様な視点で考察させる。